

Good Times Fly



ANA VISION 2005

第55期 事業報告書

2004年4月1日～2005年3月31日



北海道・大沼と胸ヶ岳

国内線

国内……………132路線
 運航便数……865便/日
 提供座席数…201,889席/日

2005年6月15日現在

●ANAグループが就航している都市

*IBX (IBEXエアラインズ)・
 ADO (エア・ドゥ)との
 コードシェア便(※)
 を含む

国際線

コードシェア便(※)を含む
 151路線2,563便/週

2005年6月15日現在

グループ運航便:35路線488便/週

他社コードシェア便:147路線2,075便/週

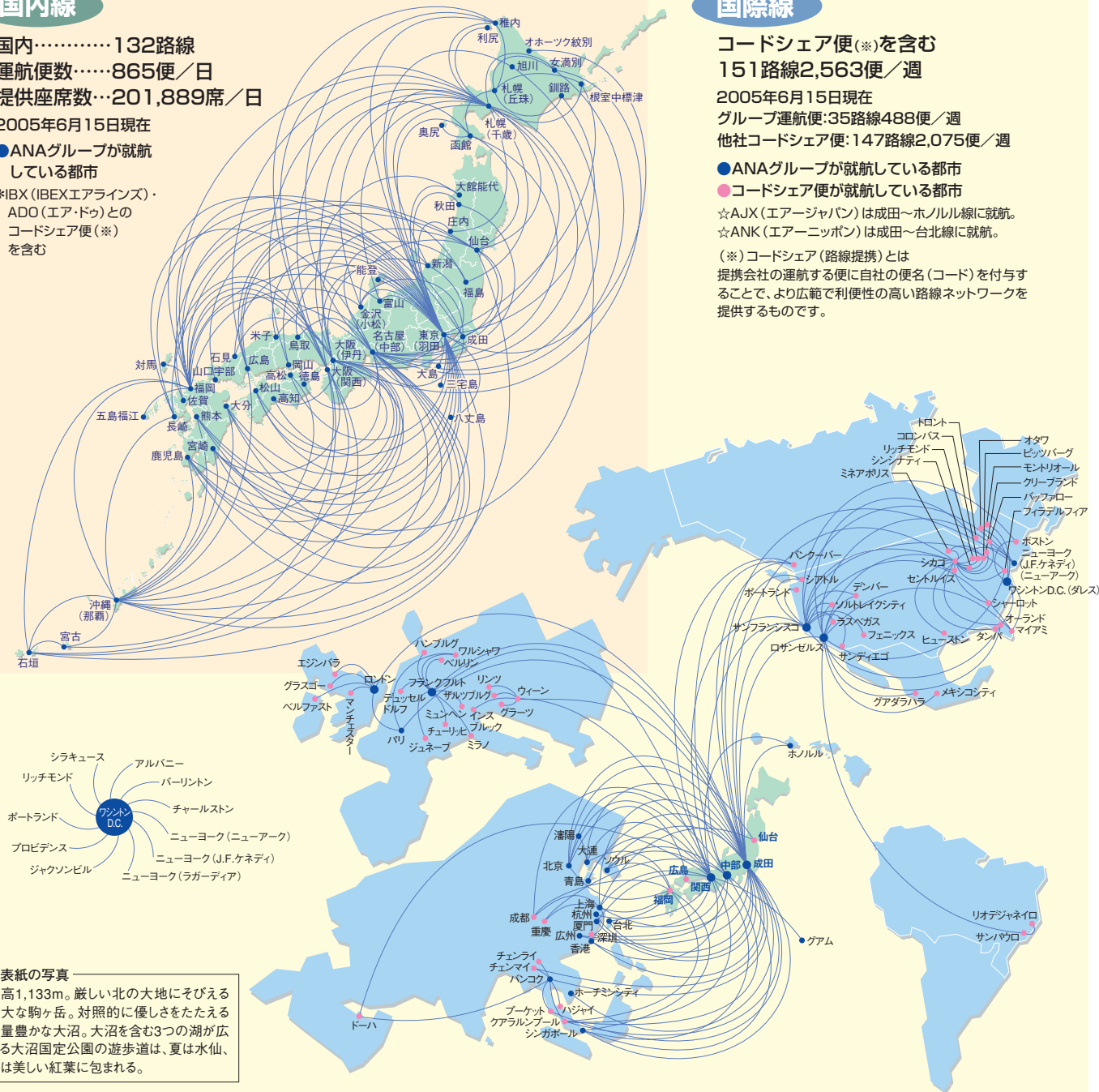
●ANAグループが就航している都市

●コードシェア便が就航している都市

☆AJX (エアー・ジャパン)は成田～ホノルル線に就航。

☆ANK (エアー・ニッポン)は成田～台北線に就航。

(※)コードシェア(路線提携)とは
 提携会社の運航する便に自社の便名(コード)を付与することで、より広範で利便性の高い路線ネットワークを提供するものです。



●表紙の写真

標高1,133m。厳しい北の大地にそびえる雄大な駒ヶ岳。対照的に優しさをたたえる水量豊かな大沼。大沼を含む3つの湖が広がる大沼国定公園の遊歩道は、夏は水仙、秋は美しい紅葉に包まれる。

株主の皆様へ

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

当社第55期事業報告書「ANA VISION」をお届けするにあたり、ここに謹んでご挨拶申し上げます。

2005年4月1日に大橋洋治は代表取締役会長に就任し、私、山元峯生が代表取締役社長を務めることになりました。

私の使命は、前任の大橋が掲げたグループ経営ビジョン「航空事業を中核としてアジアを代表する企業グループを目指す」を、スピード感をもって実現することであると考えております。安全運航を堅持し、この目標を達成して、株主の皆様のご期待に応えることができるように誠心誠意努力していく所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

2004年3月期から3年間で変動リスクに強い企業体質を構築するために、年間300億円の費用削減を目標とした「コスト構造改革」をANAグループ一丸となって強力に推進し、2005年3月期までに目標を1年前倒して達成することができました。

さらに燃油価格高騰の環境下でも着実に利益を拡大し、国際線事業は1986年に就航以来、初の黒字化を達成しました。

その結果、2005年3月期の売上高は前期比6.2%増加し、1兆2,928億円となりました。営業利益は前期比126.4%増加し過去2番目の水準となる777億円を計上し、当期純利益は前期比8.9%増の269億円となり、1株当たり3円の配当とさせていただきます。

「アジアNo.1エアライン」への道のりはまだ半ばですが、本年2月に発表しました「2005～2007年度 中期経営戦略」最終期の2008年3月期には品質・顧客満足度・価値創造のすべての分野においてアジアNo.1が視野に入る水準に到達するよう、計画を着実に遂行してまいります。

私たちANAグループの積極果敢なチャレンジにご期待ください。

2005年6月



代表取締役社長 山元 峯生

※本文中の記載金額、物量は表示単位未満の端数を切り捨てております。

当期の状況

当期のANAグループ連結業績は、一進一退の景気動向や燃油価格の高騰、度重なる台風の影響など厳しい外部環境にありながら、国際線は各方面の旅客需要が堅調に推移した結果、大幅な増収となるとともに、国内線旅客も利用率と単価の改善によって増収を図り、営業収入は過去最高値を記録しました。また一方で、コスト構造改革の柱である人件費の削減や運航機材の需給適合を機動的に行うことで運航コストを抑制するなど、引き続きコスト削減に努めた結果、計画を上回る好決算となりました。売上高は1兆2,928億円（前年同期比6.2％増）、営業利益は777億円（同126.4％増）、経常利益は過去最高値の652億円（同95.0％増）、当期純利益は269億円（同8.9％増）となりました。

連結貸借対照表

（単位 億円）

	当期 (2005年3月31日現在)	前期 (2004年3月31日現在)
流動資産	4,211	4,633
現金及び預金	1,582	2,162
営業未収入金	1,138	1,017
有価証券	57	190
たな卸資産	526	527
繰延税金資産	256	173
その他の流動資産	651	561
固定資産	11,848	11,008
有形固定資産	9,584	8,714
建物及び構築物	1,801	1,799
航空機	4,976	4,618
機械装置及び運搬具	169	151
工具器具及び備品	160	140
土地	1,096	1,118
建設仮勘定	1,379	885
無形固定資産	376	403
投資その他の資産	1,887	1,890
投資有価証券	682	688
繰延税金資産	468	384
その他の投資	736	818
繰延資産	6	8
資産合計	16,066	15,651

【流動資産】
有利子負債の返済や航空機投資などにより、現預金が減少しています。

【固定資産】
主に新造機の取得やボーイング787型機をはじめとした今後導入予定の航空機材に対する前払いなど、航空機関連の資産が増加しました。

連結対象会社の状況

（2005年3月31日現在）

連結子会社 96社（新規連結1社・合併による会社消滅及び会社清算により7社除外）
持分法適用会社 22社（1社 除外）

	当期 (2005年3月31日現在)	前期 (2004年3月31日現在)
流動負債	5,064	4,416
支払手形及び営業未払金	1,421	1,239
短期借入金	160	250
一年以内に返済する長期借入金	1,399	717
一年以内に償還する社債	484	1,097
賞与引当金	132	135
その他の流動負債	1,466	976
固定負債	8,756	9,644
社債	2,500	3,196
長期借入金	4,878	5,054
退職給付引当金	1,077	1,053
その他の固定負債	300	339
負債合計	13,821	14,061
（有利子負債）	（ 9,422）	（10,317）
少数株主持分	102	89
資本金	1,072	867
資本剰余金	736	531
利益剰余金	312	88
その他有価証券評価差額金	46	40
為替換算調整勘定	△ 16	△ 19
自己株式	△ 8	△ 7
資本合計	2,142	1,500
負債、少数株主持分及び資本合計	16,066	15,651

【負債の部】
社債の償還に加えて、新株予約権付社債の株式転換促進等により、有利子負債は、894億円減少しました。

【資本金および資本剰余金】
株式への転換に伴い、410億円増加しました。

【利益剰余金】
前期配当金の支払いがありましたが、当期純利益269億円の計上の結果、223億円増加しました。この結果、株主資本比率も13.3％となり、前期末に比べて3.7％改善しました。

連結損益計算書

（単位 億円）

	当期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	前期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
営業収入	12,928	12,175
営業費用	12,150	11,832
営業利益	777	343
営業外収益	329	524
営業外費用	454	533
経常利益	652	334
特別利益	21	103
特別損失	216	86
税金等調整前当期純利益	456	352
法人税、住民税及び事業税	345	41
法人税等調整額	△ 169	62
少数株主利益	10	0
当期純利益	269	247

次頁事業別セグメント情報をご参照ください。

【営業外収益】
新機材やエンジンなどの導入に伴う機材関連報奨額等を計上しました。

【営業外費用】
支払利息や航空機関連資産の除却損・売却損が中心ですが、支払利息は有利子負債削減により前期に比べて減少しています。
金融収支は△169億円で前期比10億円の改善となりました。

【特別損失】
福利厚生施設や遊休資産の売却、関連事業にかかわる損失引当、早期退職制度の実施など今後の財務体質改善に向けた取組みに伴う損失を計上。加えて羽田新ターミナル移転に伴う資産除却・移転費用も発生しました。

連結キャッシュ・フロー

（単位 億円）

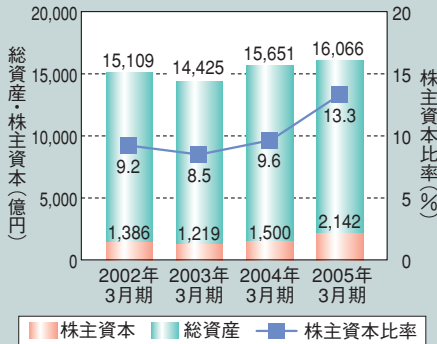
	当期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	前期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
1. 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,490	897
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,692	△ 958
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 516	828
4. 現金及び現金同等物の換算差額	4	△ 3
5. 現金及び現金同等物の増減額	△ 713	764
6. 現金及び現金同等物の期首残高	2,345	1,581
7. 連結範囲変更に伴う影響額	0	—
8. 現金及び現金同等物の期末残高	1,631	2,345

【営業キャッシュ・フロー】
国内、国際旅客・貨物の増収を中心に、潤沢な営業収入を確保する一方、コスト削減によってキャッシュの支出を抑えたことなども奏効し、営業キャッシュ・フローは1,490億円と過去最高のキャッシュインとなりました。

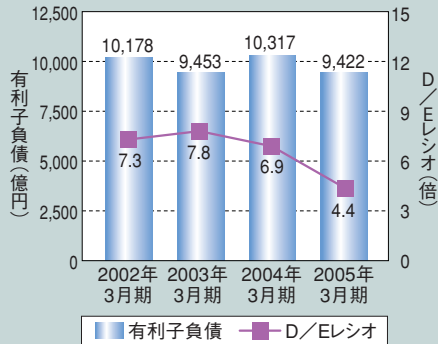
【投資キャッシュ・フロー】
主に新造機の取得や今後導入する航空機の前払い、予備エンジン・部品の購入などを中心に1,692億円のキャッシュアウトとなりました。

【財務キャッシュ・フロー】
社債の償還など有利子負債返済や配当金の支払いなどにより、516億円のキャッシュアウトとなりました。手元資金は前期末に比べて713億円減少し、期末残高は1,631億円となっています。

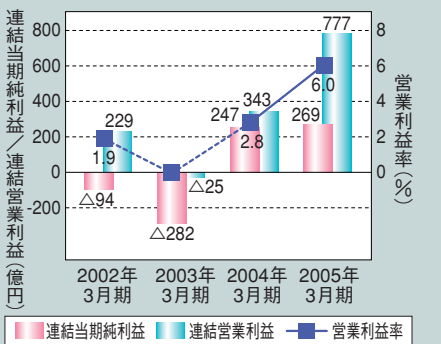
総資産・株主資本推移



有利子負債・D／Eレシオ

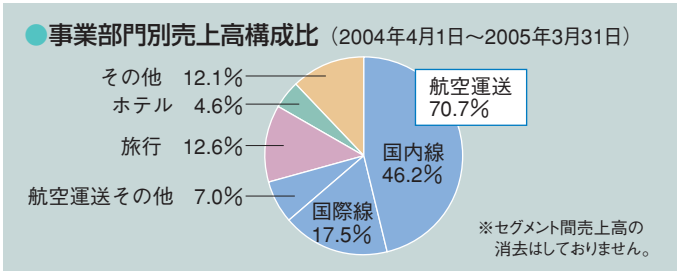


連結営業利益の推移



ANAグループ(連結)

事業別セグメント情報 (単位 億円)			
		当期 (2004年 4月1日から 2005年 3月31日まで)	前期 (2003年 4月1日から 2004年 3月31日まで)
航空運送事業	国内線	6,971	6,810
	国際線	2,641	2,238
	その他	1,056	930
	営業収入計	10,669	9,979
	営業費用	9,989	9,707
	営業利益	680	272
旅行事業	営業収入	1,902	1,686
	営業費用	1,871	1,665
	営業利益	31	20
ホテル事業	営業収入	694	688
	営業費用	699	694
	営業利益	△ 4	△ 6
その他の事業	商事・物販	1,219	1,205
	情報通信	250	196
	その他	363	367
	営業収入計	1,833	1,770
	営業費用	1,763	1,723
	営業利益	69	46
営業収入計		15,100	14,124
セグメント間消去		△ 2,172	△ 1,948
連結営業収入		12,928	12,175
営業費用計		14,324	13,790
セグメント間消去		△ 2,173	△ 1,958
連結営業費用		12,150	11,832
連結営業利益		777	343



[営業収入]
〈国内線旅客〉総需要が伸び悩むなか、一部路線で運航機材の中小型化を進めるなど需要に応じた運航機材の投入を図り生産量(運航キロ×提供座席数)は前期比96.0%となりました。しかし、イールドマネジメント(収益向上施策)に努めるとともに、お客様の利便性を追求したサービスや「スーパーシートプレミアム」の導入など独自の商品戦略を展開した結果、旅客数は前期比99.3%とほぼ前期並みを維持し、営業収入は同102.2%になりました。
〈国際線旅客〉総じてビジネス、旅行需要とともに堅調に推移するなか、収益性の高い中国路線の強化や外国航空会社とのアライアンスによるネットワークの拡充を基軸に積極的な営業戦略を展開しました。この結果、旅客数は前期比124.7%、営業収入は同119.1%と大幅な伸びを達成することができました。
〈貨物・郵便〉国内貨物では深夜貨物定期便の拡大などにより新規需要の獲得に努めました。
国際貨物では、中国路線ネットワークの拡充等を図り中国を中心とするアジア圏の経済成長を背景とした旺盛な需要の取り込みに努めました。この結果、国内、国際とも取り扱い量が増加し増収となりました。
[営業費用]
運航コスト抑制などコスト構造改革を着実に実行するとともに、燃油の急騰に対処するため、燃油消費量の節減や諸経費の削減に努め、営業費用の増加を最小限に抑えました。
この結果、航空運送事業は、大幅な増収増益となりました。

旅行事業は、海外旅行需要が大きく回復するとともに、チャーター便を利用した商品の販売も貢献し、併せて国内旅行商品も全般的に好調であったことから、増収増益となりました。

ホテル事業は沖縄地区のリゾートホテルが旅行需要に支えられ好調でしたが、リニューアル改修工事を行った一部ホテルで客室の売り止めも発生しました。その結果、増収ながら営業赤字となっています。

商事および物販事業は、海外旅行需要の回復を受け免税品の販売が回復し、羽田新ターミナルや中部新空港での売店の売上も好調でした。情報通信事業は航空需要と連動して予約・発券システムの利用が大幅な伸びとなりました。

航空運送事業の売上高

事業年度			当期 (2004年 4月1日から 2005年 3月31日まで)	前期 (2003年 4月1日から 2004年 3月31日まで)	増 減
区 分					
航空運送事業	国内線	旅 客 収 入	6,587	6,448	139
		貨 物 収 入	295	266	28
		郵 便 収 入	85	92	△ 6
		手 荷 物 収 入	2	3	△ 0
		小 計	6,971	6,810	160
	国際線	旅 客 収 入	2,107	1,769	337
		貨 物 収 入	500	432	68
		郵 便 収 入	28	31	△ 3
		手 荷 物 収 入	5	5	△ 0
		小 計	2,641	2,238	402
	航空事業収入合計		9,613	9,049	563
	そ の 他 の 収 入		1,056	930	126
合 計		10,669	9,979	689	

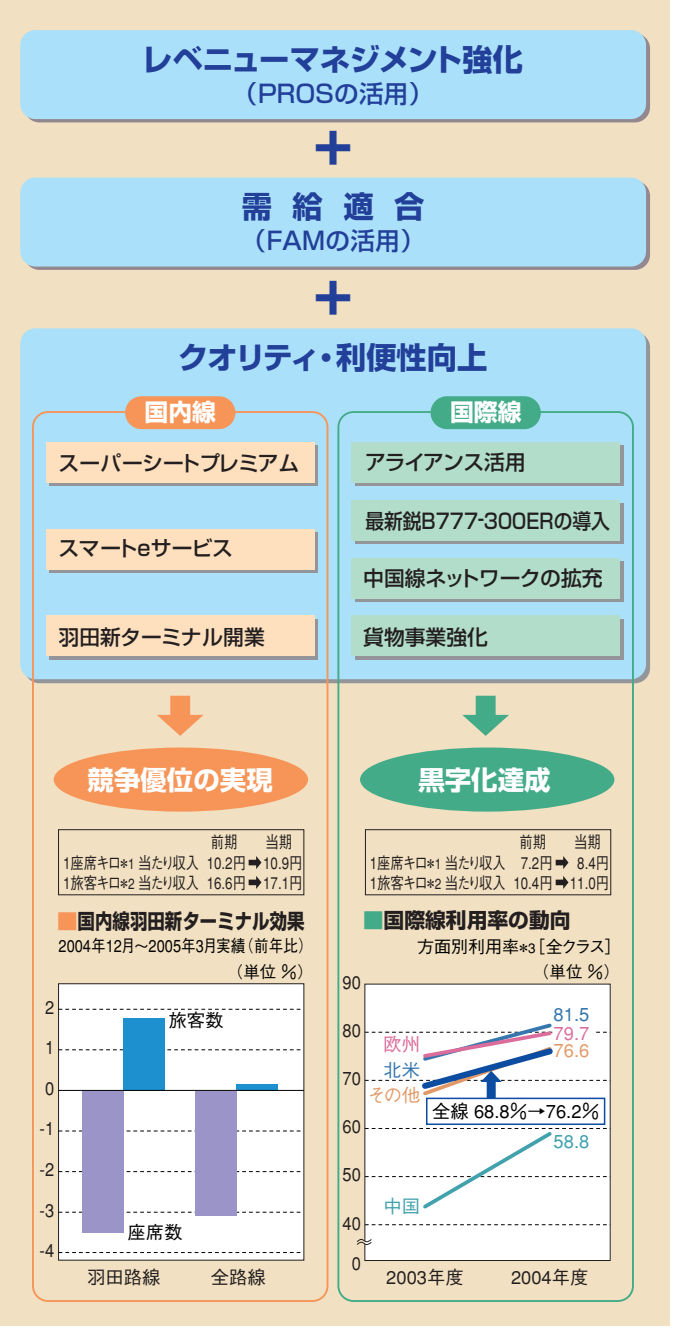
(注) 1. 各事業区分の営業収入は事業区分(セグメント)間の売上高を含んでおります。
2. 新規連結子会社となったエアースセントラル(株)は、下半期の実績のみ反映されています。

輸送実績

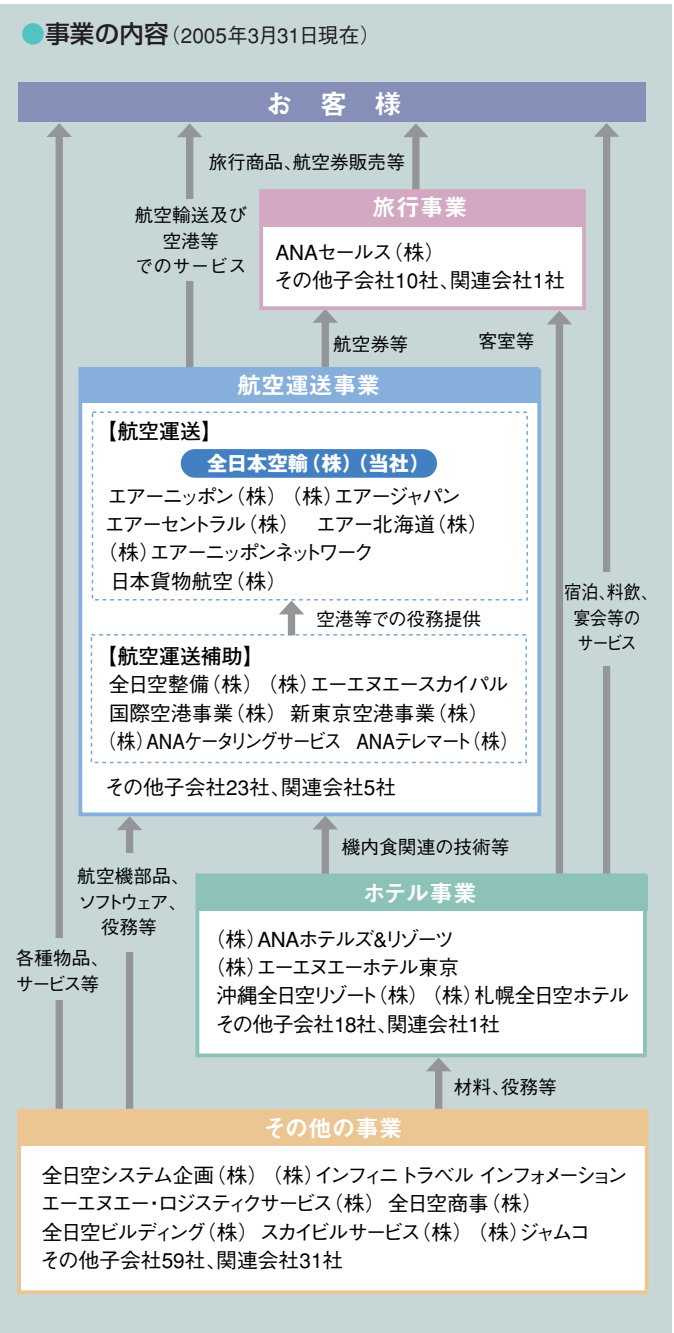
		事業年度	当期 (2004年 4月1日から 2005年 3月31日まで)	前期 (2003年 4月1日から 2004年 3月31日まで)	前年比 (%)
区 分					
国内線	旅客数(万人)		4,448	4,478	99.3
	座席キロ(千万座席キロ)*1		6,064	6,314	96.0
	旅客キロ(千万人キロ)*2		3,845	3,885	99.0
	利用率(%)		63.4	61.5	1.9
	貨物輸送重量(千トン)		422	414	101.9
	貨物輸送量(百万トンキロ)		409	400	102.2
	郵便輸送重量(千トン)		87	72	120.0
	郵便輸送量(百万トンキロ)		92	78	118.4
国際線	旅客数(万人)		411	330	124.7
	座席キロ(千万座席キロ)*1		2,519	2,462	102.3
	旅客キロ(千万人キロ)*2		1,919	1,695	113.2
	利用率(%)		76.2	68.8	7.4
	貨物輸送重量(千トン)		234	220	106.3
	貨物輸送量(百万トンキロ)		1,083	1,042	104.0
	郵便輸送重量(千トン)		13	13	101.3
	郵便輸送量(百万トンキロ)		59	62	95.0

(注) *1. 座席キロ:(座席数)×(運航キロメートル)
*2. 旅客キロ:(旅客数)×(運航キロメートル)
*3. 利用率:(旅客キロ)÷(座席キロ)
4. 国内線=ANA+エアースニッポン(株)+エアース北海道(株)+ (株)エアースニッポンネットワーク+エアースセントラル(株)
5. 国際線=ANA+エアースニッポン(株)+(株)エアースジャパン
6. 国内線、国際線ともにチャーター便を除いております。
7. 国内線深夜貨物定期便実績を含みます。

航空運送事業収益向上への取組み



ANAグループ（連結）

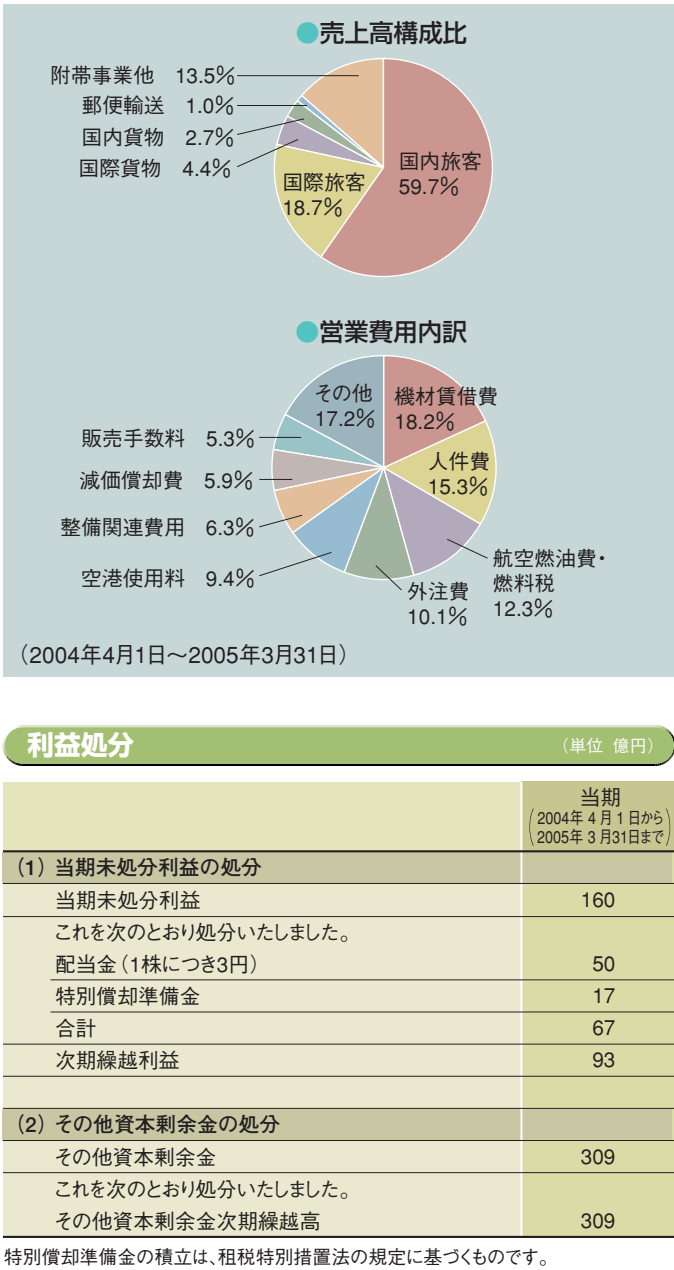


単体財務諸表

ANA（単体）

貸借対照表			（単位 億円）	
	当期 （2005年3月31日現在）	前期 （2004年3月31日現在）		
資産の部				
流動資産	3,371	3,878		
固定資産	10,115	9,270		
繰延資産	1	2		
資産合計	13,488	13,150		
負債の部				
流動負債	3,659	3,525		
固定負債	7,818	8,088		
負債合計	11,477	11,613		
資本の部				
資本金	1,072	867		
資本剰余金	736	531		
利益剰余金	160	102		
その他有価証券評価差額金	44	38		
自己株式	△ 3	△ 2		
資本合計	2,011	1,537		
負債・資本合計	13,488	13,150		

損益計算書			（単位 億円）	
	当期 （2004年4月1日から 2005年3月31日まで）	前期 （2003年4月1日から 2004年3月31日まで）		
営業収入	11,004	9,699		
営業費用	10,361	9,459		
営業利益	643	240		
営業外収益	285	468		
営業外費用	404	458		
経常利益	524	250		
特別利益	15	80		
特別損失	296	74		
税引前当期純利益	242	256		
法人税、住民税及び事業税	306	15		
法人税等調整額	△ 168	138		
当期純利益	104	102		
前期繰越利益又は損失（△）	56	△ 103		
利益準備金取崩高	—	103		
当期末処分利益	160	102		



2006年3月期業績見通し

（前期比）			
売上高	（連結）	13,260億円	+332億円
	（単体）	11,390億円	+386億円
営業利益	（連結）	740億円	△ 37億円
	（単体）	620億円	△ 23億円
経常利益	（連結）	445億円	△ 207億円
	（単体）	355億円	△ 169億円
当期純利益	（連結）	100億円	△ 169億円
	（単体）	85億円	△ 19億円

＜業績予想の前提＞

	国内線	国際線
提供座席キロ（ASK） 前期比	100.4%	99.9%
旅客キロ（RPK） 前期比	100.0%	96.5%

〔為替レート〕
1米ドル＝110円（2004年度実績107.6円）
〔原油価格〕
ドバイ原油 1バレル当たり39米ドル（前期実績36.6\$）
シンガポール ケロシン 1バレル当たり57米ドル（前期実績52.2\$）

＜概 況＞

- 売上は「航空運送」を中心に2005年3月期に比べ332億円の増収を見込んでおりますが、原油価格高騰の影響で燃油費が185億円程度増加することが予想されることなどにより、営業利益は740億円程度（連結）を見込んでおります。
- 引き続き有利子負債削減に努め、さらに金融収支は改善する見通しですが、2005年3月期に営業外収益として計上した機材関連報奨額については、国際会計基準への統一の流れをふまえ、今後収益計上をせず、固定資産の簿価を減額する方針であるため、経常利益は445億円程度（連結）を見込んでおります。
- 当期純利益は、減損会計への対応、及び事業計画に基づく資産の除売却等により200億円程度の損失処理を計画しているため連結ベースで100億円、単体で85億円程度を見込んでおります。なお、株主の皆様への利益配当金は3円を予定しております。

（注）上記予想は本報告書作成時点（2005年6月15日）において入手可能な情報、及び今後の業績に与える不確実な要因に係わる本報告書作成時点における仮定を前提としております。実際の業績は今後様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。



“つねに「夢」と「感動」を届けられる”ANAでありたい！ 自由と元気が競争を勝ち抜く力になる

2005年4月1日、山元峯生が代表取締役社長に就任いたしました。

そこで、ANA便でワシントンD.C.に「通勤」された経験もあるという早稲田大学大学院教授川本裕子さんに山元社長へのインタビューをお願いしました。

400億円のコスト削減を糧に

2009年に激化する競争を勝ち抜く

川本 私は仕事で空を飛ぶ機会も多いのですが、父がセスナ機を操縦していたこともあって、小さい頃から飛行機が大好きなんです。だから今日はお話を伺えるのをとても楽しみにしていました。

山元 ありがとうございます。ユーザーの視点から、厳しいご意見を聞かせていただけるとうれしいですね。

川本 過去最高益を達成した後会社を率いていくことになりますが、トップとしての抱負を聞かせてください。

山元 1998年3月期に30年振りに無配になって以来、6年間にわたって配当できなかった時期がありました。本当に株主の皆様に応えられず申し訳ありません。経営陣はもとより、社員一人ひとりが努力を重ねて、ようやく2003年度から復配することができました。社内の結束が、過去最高益の原動力になったともいえるでしょう。もちろん今後とも、二度と無配に戻ることのないよう、とにかく全役職員ががんばっていかなくてはならないと思っています。

川本 株主の方々への還元を第一に考えていらっしゃるわけですね。復配できるまで業績が回復した最大の理由は何ですか？

山元 単純に言えば、需要に波があっても収益を上げられる企業基盤の整備、つまり、不況にも耐えられるようなコスト構造への転換です。安全運航を絶対に堅持することを大前提にして、2003年度以降、年間300億円のコスト削減を断行し、また2004年度については、売上の拡大に加えて、燃油価格の高騰にも早期に手を打ちました。2期続けて増益を果たしましたが、さまざまなリスクに備えて中期的に安定した収益を確保するためには、さらにあと100億円のコストカットが必要だと考えています。

川本 増収増益という業績の好調さとは裏腹に、非常に厳しい認識をされていますね。引き続きリストラを推し進める一方で、業績を伸ばしていくための戦略についてはどのようにお考えですか。

山元 まずは、2005年度の燃油価格対策。そして、われわれの本当の勝負はその先、2009年に予定されている羽田空港拡張に伴う対応です。現在年間28万回の発着枠が約40%増になる予定です。そうなれば、国内線はもちろん、国際線も

視野に入れたビジネスプランを早急に練る必要があります。国外の航空会社も着々と準備を進めているは



PROFILE

山元 峯生（やまもと ねお）

2005年4月より代表取締役社長に就任。グループ経営戦略会議議長、総合安全推進委員会・リスクマネジメント委員会総括。1945年生まれ。1970年全日本空輸株式会社入社。東京空港支店客室部長、総務部長、人事部長等を経て1999年に取締役社長室長。2003年代表取締役副社長。

ずです。海外のディスカウント航空会社と競合する可能性もあるでしょう。だからこそ、今のうちに海外のエアラインにも対抗できるような、高収益体質に転換する必要があるのです。

最も有効な安全対策は

経営と現場のコミュニケーション

川本 海外といえば、国際線が初めて黒字化したそうですね。不採算路線を整理したとお聞きしましたが、これからどのように展開されるのでしょうか。

山元 国際線は欧米や中国のビジネス需要の多い高収益路線に絞り込んでいます。旅行客だけに依存した路線はどうしても収益的には厳しい。だから、ビジネス客をメインとした路線で、付加価値の高い商品を販売していくことが今後の国際線戦略です。また、3年後にボーイング787という230席くらいの中型の飛行機が入ってきます。その機動力をうまく活用すれば、多様化するニーズに応えていくことができると思います。まだまだ実現するには課題がありますが、安さを競うのではなく付加価値で売れるエコノミークラスを商品化する最初の航空会社になりたいという野心をもっています。

新社長はこんな人！

出身地：鹿児島
趣味：スキューバダイビング、古本屋めぐり
好きな本：「光さす故郷へ」朝比奈あすか 著
他 時代小説



川本 以前、ワシントンへ通勤(!)していたことがあって、本当によく利用させていただいたんです。仕事で疲れきって日本に帰るときに、ANAに乗るとホッとする感じがしました。

山元 そうおっしゃっていただけると本当にうれしいですね。ただ、顧客満足度調査をすると、海外にはもっと高い評価を得ているエアラインもありますから、サービス面でも世界のトップになれるよう努力を続けてまいります。

川本 最近、運輸業界の安全性が大きな問題になっています。こうした状況について山元社長の認識をお聞かせください。

山元 「安全が経営の基盤である」ということをつねに意識しています。お客様がわずかにでも安全に疑問を感じたら、もうダメなんです。安全に対する信頼性が揺らげば、どんなにコストカットしようが、結局収益に大きなダメージをもたらします。ですから、いかにして社員一人ひとりの安全に対する意識を高めていくかが大切です。やはり重要なのは、経営と現場のコミュニケーションを欠かさないことだと思います。

川本 現場とのコミュニケーションを円滑にするために実施されていることはありますか？

山元 毎週1回、私と副社長が羽田に行き、整備をはじめ、各本部長とミーティングをもっています。これを続けていくと、かなり細かい現場の状況が把握できます。また、経営側と



現場スタッフとが直接語り合う「ダイレクトトーク」でも、安全がテーマとなることがよくあります。現場の問題をいち早く認識して、経営が敏感に対応していくことが最大の安全対策です。

ANAらしさを支える元気の元は 自由でのびのびとした社風にある

川本 ANAに乗るたびに思うんですが、スタッフのみなさん本当に元気があふれてますよね。あの笑顔と明るさの元って何なのでしょう。

山元 難しい質問ですが、強いていえば自由な社風が浸透しているということですか…。私は、お客様につねに「夢」と「感動」を届けられるエアラインであることを、経営理念として特に意識して心がけていきたいと考えております。

川本 山元社長が作られた「バーチャルハリウッド」(※)という制度があるそうですね。

山元 ええ。簡単にいうと社内からアイデアを募る提案制度です。シナリオ制作からスポンサー探し、クランクアップという発表会までを、映画作りのプロセスになぞらえているんです。昨年は34件ほどの企画が上がってきましたが、半分くらいモノになりそうで、ちょっと驚きました。

川本 そういう自由な空気がANAらしさなのかもしれない。その雰囲気は維持していただきたいですね。

山元 最初から民間、アンチ権力というスタンスだったことも大きいと思います。社員も私を筆頭に不良ばかりで優等生が少ない。かつては野武士集団と呼ばれていたこともありまし。中途採用も行っているんですが、勝ち組の会社からANAにおもしろさを求めて来た人材が定着できるような会社でありたいですね。

川本 多様性があるからこそ、進化していけるということですね。商品のカタチは真似できても、元気なインターフェイスは真似できないと思います。ユーザーとしてANAに望むのは、このまま伸び伸びと事業を拡大してほしいということ。それに尽きますね。

山元 最近は正直なところ少し窮屈になってきたように感じるので、自分たちが享受してきた自由闊達さを後進にも残しておかなければ、と考えているんです。新しいこと、おもしろいことにどんどん挑戦できるように…。ANAという会社を、夢のあることを楽しい仲間と一緒に実現できる場にしたいと考えています。

川本 最後に、山元社長の座右の銘をお聞かせください。

山元 「敬天愛人」という、西郷隆盛が愛用したことで知られている言葉です。科学では説明しきれない自然や社会に畏敬の念を抱き、謙虚な気持ちをもって、人に接し愛することは、とても尊いことです。われわれ航空会社は、安全に対して過信することなく、自然という予測できないものを相手にするビジネスであることを心に刻み、提供しているサービスがお客様本位であるかをつねに謙虚に考え続けながら素直な心で今後の経営にあたりたいと思います。

川本 今後の“ANA”にますます期待しています。

山元 どうもありがとうございます。

※ANAバーチャルハリウッドとは

【概要】業務レベルでは「夢物語として一笑に付されそうな奇抜なアイデア」を本気で実現してみたいと考えるグループ社員が、その想いに共感する仲間を集めて仮説検証し、役員に提案して実現に結びつける活動
【目的】①他社との差別化を図り、ANAの将来の価値を高めること
②組織を飛び越えて課題解決ができる変革リーダーの育成
【その他】副次的な効果として、活動を通じて人的ネットワークが広がり当事者の成長も期待できる

この指と一まれ!

PROFILE

川本 裕子 (かわもと ゆうこ)
早稲田大学大学院ファイナンス科教授。東京大学文学部社会心理学科卒業。オックスフォード大学大学院経済学修士課程修了。1982年旧東京銀行入行。1988年マッキンゼー東京支社入社。1995年～1999年夏までバリ勤務。金融タスクフォースメンバー、道路関係四公団民営化推進委員会委員などを務める。著書に「銀行収益革命」(東洋経済新報社2000年)、「日本を変える―自立した民をめざして」(中央公論新社2004年)ほか。



2004年度 おもな出来事

- 2004**
- 4月** 1日・ANAグループ便名を統一
26日・次世代中型機「B787シリーズ」の導入を決定
28日・ボンバルディア社のDHC8-400型機4機を発注
- 5月** 14日・第2回「私の青空」国際環境絵本コンクール募集開始
- 6月** 9日・「幸せの花 すずらん」の押し花を全国50の病院へお届け
- 7月** 1日・国内線「ANAらくのりサービス」を開始
・IATA国際運賃の改定 日本発普通運賃および特別運賃5%値上げ
12日・JAL、名鉄と共同出資で「中部スカイサポート㈱」を設立
14日・2015年満期ユーロ債の繰上償還を決議（2004年8月31日までに99.4%転換）
30日・ボンバルディアDHC-8-400型機を2機発注
- 8月** 1日・シンガポール航空とコードシェア提携
- 9月** 1日・ANAグループ小型機新会社「AIR NEXT」を設立
1日・上海航空とコードシェア提携
4日・関西空港開港10年
20日・成田空港利用、開港26年で5億人突破！
- 10月** 17日・ANA北京国際マラソン開催
23日・新潟県中越地震発生 臨時便運航
- 11月** 1日・中日本エアラインサービス㈱(現エア・セントラル㈱)がANAグループ入り
・小松～成田線就航開始
15日・成田～バンコク線を1日2便に
・B777-300ERが成田～上海線に就航 飛行中のネット接続スタート！



スーパーシートプレミアム



羽田空港新ターミナルビル



時代への乗り遅れにご注意も、ANAチェックイン/スタートサービス

- 12月** 1日・羽田空港新ターミナルオープン
・「スマートeサービス」開始
・「スーパーシートプレミアム」誕生
5日・小学生から公募したデザインによる4代目ポケモンジェット就航開始



4代目ポケモンジェット

© Nintendo・Creatures・GAME FREAK・TV Tokyo・ShoPro・JR Kikaku © Pokémon © ビカチュウプロジェクト



セントレア
(中部国際空港)

情報ダイジェスト

2005年4月～2005年5月

4月

- 1日** 卓球の中国スーパーリーグ 福原 愛選手所属
遼寧省本鋼チームへスポンサー協賛
オフィシャルエアラインとして国内外の卓球大会を強力サポート！
※女子団体戦
第一ステージ 6/5(日)～7/20(水)
第二ステージ 7/23(土)～12/3(土)



- 15日** ANA時刻表にJR北海道
「快速エアポート」との乗り継ぎダイヤを併載
～JR新千歳空港駅構内に国内線自動チェックイン機を設置～

- 25日** 成田～広州線就航開始で中国主要9都市をカバー！
月・火・木・金・日曜日に運航(運航機はB767-300ER型機)
成田→広州 9:50発 13:25着
広州→成田 14:40発 19:45着

- 25日** 国際線における「ANA手ぶらサービス」の本格展開と
新型自動チェックイン機の導入

- 27日** 第3回「私の青空」国際環境絵本コンクール募集開始
地球環境や自然・生き物・資源(もの)についてあなたが大切にしたいことを絵本に！
詳細 <http://www.ana.co.jp/ana-info/ana/ehon05/index.html>

- 28日** ・2005年3月期決算発表

- ・全日空ビルディング(株)を株式交換契約により完全子会社とすることを発表
- ・取締役会決議による自己株式取得を発表
普通株式800万株(上限)・取得総額30億4,000万円(上限)
- ・スカイネットアジア航空(SNA)と業務提携
整備関連、空港ハンドリング、営業関連、乗務員教育、訓練等でSNAとの包括的提携について産業再生機構と3社間で合意

5月

- 1日** 新デザインの制服で業務開始！
2003年8月プロジェクト発足後、お客様、社内でアンケートを実施して最終決定。ANAグループ初、ユニフォームを统一到！

- 12日** “New Style, CLUB ANA♣”
パリ線にも導入開始

東京～ロンドン、フランクフルト、ニューヨーク線につづき、パリ線にも新規登場！



- 16日** 名古屋～上海線 就航開始！
月・水・金・土曜日に運航。(運航機材はB767-300ER型機)
名古屋→上海 10:40発 12:20着
上海→名古屋 13:20発 16:40着

- 18日** 自己株取得(40万株)

- 20日** 自己株取得(750万株)



9代目CA制服

株主の皆様へお知らせ

■配当金のお受け取りのご案内 〈本誌と同封の配当金に関する書類をご確認ください。〉

●「郵便振替支払通知書」を受け取られた方は2005年7月29日（金）までにお近くの郵便局に「受領者印章」欄にお届印押印の上、お受け取りください。2005年7月30日以降は、「郵便振込支払通知書」裏面のお取扱方法をご確認の上、お手続きください。

★配当金支払方法につきまして郵便局にて現金でお受け取りになる方法のほかに、銀行口座、または郵便貯金口座への振り込みサービスを行っています。同封の配当金振込指定書に記載の上、投函願います。このサービスをご利用になりますと郵便局の窓口で郵便振替支払通知書と配当金を引き換える必要がなくなります。詳しいお手続き方法等は下記住友信託銀行証券代行部までお問い合わせください。

※尚、今回お申し込み分は次回（2006年6月）の配当金より振込サービスが開始されます。

[お申し込み・お問い合わせ] 住友信託銀行証券代行部 **0120-176-417**（平日9:00～17:00）

●「利益配当金計算書および配当金振込先について」を受け取られた方は記載の指定銀行または郵便局の口座へお振り込みいたしましたので内容をご確認くださいようお願いいたします。

■株券不発行制度について ～上場会社株式の一律ペーパーレス化～

2004（平成16）年6月9日に「株券不発行制度」に関する法律（*1）が公布され、上場会社の株式に係わる株券は、**2009（平成21）年6月までに一斉に廃止（*2）**されます。（株券の電子化）

*1 「株式等取引に係わる決裁の合理化を図るための社債等の振替に関する法律等の一部を改正する法律」

*2 公布日（平成16年6月9日）から起算して5年以内に施行

株券不発行制度とは

- ・株券廃止後は、現在の証券保管振替制度（ほふり）を発展させて新しい振替制度に一斉移行されます。
- ・これにより現在発行されている株券は無効となりますが、株主としての権利は従来と同様に確保されます。
- ・但し、現在お手元に株券をお持ちの場合は、株主の権利を確保しておく必要があります。

新制度移行時の留意点

株式の保有形態により、次の通り異なります。

〈ほふり〉を利用
されている場合

特にお手続きの必要はありません。

ご自分名義の株券を
お手元に保管されている場合

株主の権利は確保されますが、新制度移行後は、そのままでは売却できません。証券会社等の「振替口座」に移管する必要があります。

ご自分以外の名義の株券を
お手元に保管されている場合

株主としての権利を失うことがあります。新制度移行前に、名義書換されるか、〈ほふり〉に預託してください。

※株券不発行制度が導入されるまでに予め〈ほふり〉に預託されることをお勧めします。

*今後の政省令等により、取扱が変更となる可能性もございますのでご了承ください。

★上場会社の株券電子化に資する措置として2005（平成17）年4月から特定口座への新たな「タンス株券預け入れ制度」が開始されました。

会社概要 (2005年3月31日現在)

商号	全日本空輸株式会社 All Nippon Airways Co., Ltd.
設立	1952年12月
本社所在地	東京都港区東新橋一丁目5番2号
資本金	1,072億9,228万5,578円 ※2005年6月28日現在、1,115億128万4,228円
従業員数	12,091名

役員 (2005年6月28日現在)

代表取締役会長	大橋 洋治
代表取締役社長	山元 峯生
代表取締役副社長 執行役員	戸矢 博道 大前 傑
専務取締役 執行役員	中野 雅男
常務取締役 執行役員	北林 克比古 久保 小七郎 伊東 信一郎 浜田 健一郎 長瀬 眞 森本 光雄
取締役 執行役員	日出間 公敬 岡田 圭介 野本 明典
取締役 監査役	木村 操 (社外) 梶田 邦孝 (社外) 小野 紘一郎 高田 正彦 松尾 新吾 (社外) 南山 英雄 (社外)
上席執行役員	小松 勇 本坊 憲吉 日高 誠一郎
執行役員	大西 準次 四十物 実 菊池 克頼 牧 信介 伊藤 博行 山内 純子 米里 文明 岩中 俊博 浅川 修 高橋 篤郎 篠辺 修 中村 克己 井上 伸一 山崎 邦生 浅生 岳 軸丸 裕典 竹村 滋幸 中村 昭彦

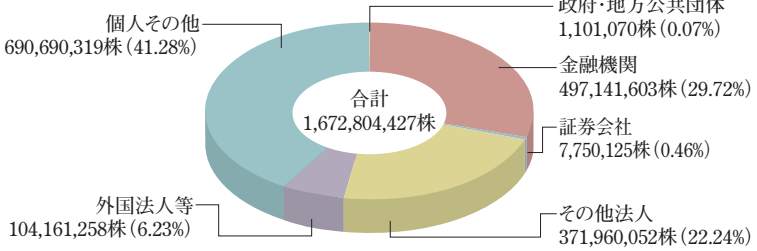
株式の状況 (2005年3月31日現在)

株式の総数	22億320万株 ※2005年6月28日以降、34億株に変更 但し、株式の消却が行われた場合は、これに相当する株式数を減ずる
発行済株式総数	16億7,280万4,427株 ※2005年6月28日現在、16億9,995万9,257株 発行済株式総数の増加は新株予約権の行使によるもの
株主数	223,389名 (前期末比11,907名増)

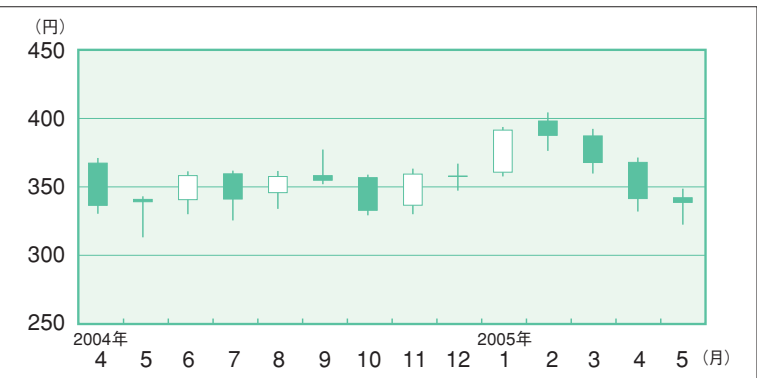
大株主	株主名	所有株式数	持株比率
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	55,161千株	3.30%
	名古屋鉄道株式会社	51,498千株	3.08%
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	45,146千株	2.70%
	東京海上日動火災保険株式会社*	43,126千株	2.58%
	三井住友海上火災保険株式会社	34,567千株	2.07%
	日本生命保険相互会社	30,713千株	1.84%
	全日空社員持株会	29,342千株	1.75%
	株式会社朝日新聞社	24,376千株	1.46%
	ニッセイ同和損害保険株式会社	23,011千株	1.38%
	株式会社三井住友銀行	21,882千株	1.31%

※2004年10月1日付で、東京海上火災保険株式会社と日動火災海上保険株式会社が合併し、東京海上日動火災保険株式会社となりました。

株主別所有株式の状況



株価の推移 (2004年4月～2005年5月)



Aircraft ANAグループ 空を演出するフリート (2005年3月31日現在)

●ボーイング747-400 (23機) 全幅64.4m・(-400D 59.6m)・全長70.7m・全高19.4m 航続距離12,370km・(-400D 3,830km) 装備座席数323席・(-400D 569席)	
●ボーイング747SR／ボーイング747-200B (4機) 全幅59.6m・全長70.7m・全高19.4m 航続距離3,640km・(-200B 11,700km) 装備座席数536席・(-200B 456席)	
●ボーイング777-300 (8機) 全幅60.9m・全長73.9m・全高18.5m 航続距離3,760km 装備座席数525席	
●ボーイング777-200 (18機) 全幅60.9m・全長63.7m・全高18.5m 航続距離4,300km・(-200ER 13,400km) 装備座席数382席・(-200ER 234席)	
●ボーイング767-300 (53機) 全幅47.6m・全長54.9m・全高15.9m 航続距離3,370km・(-300ER 10,500km) 装備座席数288席・(-300ER 214席)	
●ボーイング767-300F (1機) 全幅47.6m・全長54.9m・全高15.9m 航続距離5,970km (最大積載時) ※貨物専用機	
●エアバスA321-100 (7機) 全幅34.1m・全長44.5m・全高11.8m 航続距離3,150km 装備座席数195席	
●エアバスA320-200 (28機) 全幅34.1m・全長37.6m・全高11.8m 航続距離2,380km 装備座席数166席	
●ボーイング737-400 (2機) 全幅28.9m・全長36.4m・全高11.1m 航続距離1,550km 装備座席数170席	
●ボンバルディアDHC-8-400 (7機) 全幅28.4m・全長32.8m・全高8.3m 航続距離2,020km 装備座席数74席	
●ボーイング737-500 (25機) 全幅28.9m・全長31.0m・全高11.1m 航続距離2,780km 装備座席数133席	
●ボンバルディアDHC-8-300 (5機) 全幅27.4m・全長25.7m・全高7.5m 航続距離1,000km 装備座席数56席	
●フォッカー50 (4機) 全幅29.0m・全長25.25m・全高8.32m 航続距離1,200km 装備座席数50/56席	
合計187機 ※リース賃借機を含みます。※上記のほか、デハビランドDHC-6-300型1機を運航、ボーイング767-200型1機を賃貸中、合計数に含んでいます。	

ANA、IOSA (IATA Operational Safety Audit) 登録航空会社になる!



ANAは、2004年11月、日本では初めて、世界で14番目のIOSA (IATA Operational Safety Audit) 登録航空会社になりました。

IOSAとは、国際的に認知されたIATA (※)の標準的な安全監査プログラムのことです。責任及び権限の明確化、規程化、さらに文書化についての厳しい要求で知られるISO9000の考え方を元に、世界各国の法令、その他安全上の要求を含めた非常に高度な監査基準により実施されます。

今回のIOSA登録は、ANAの安全品質が世界的に認められた事のひとつの証と言えましょう。

また、スターアライアンスでも、各加盟航空会社の2006年までのIOSA監査合格を義務付けています。

IOSA登録航空会社は、2年毎に登録更新の安全監査を受審する必要がある、次回は2006年1月頃が予定されています。

IOSA登録会社の一覧は、IATAのホームページ、<http://www.iata.org/ps/services/iosa/registry.htm>でご覧になれます。



※IATA: International Air Transport Association (国際航空運送協会) 航空会社が加盟する国際組織。国際航空輸送に関する運賃、輸送条件等を設定する。

ANA国内線ご搭乗優待

1,000株以上ご所有の株主の皆様は、ANAの国内営業全路線でご利用になれる「株主優待券」と「株主特別優待券」を発行いたします。

優待券1枚で片道1区間がご搭乗時普通運賃(小児の場合は小児運賃)より50%割引でご利用になります。但し、スーパーシートご利用の際は、スーパーシートプレミアム株主優待割引運賃^(注)が適用になります。

*ご予約、空席、運賃照会等に関しましては、国内線予約・案内センターにお問い合わせください。

(注)スーパーシートプレミアムの航空券購入期限は、ご予約日を含め6日以内です。

■優待券発行基準日 3月31日(5月下旬発送)

- ・優待券の名称 **株主優待券**
- ・優待券の有効期間 6月1日から翌年5月31日まで(1年間)
*有効期間内はいつでもご利用になります。

■優待券発行基準日 9月30日(11月下旬発送)

- ・優待券の名称 **株主特別優待券**
- ・優待券の有効期間 12月1日から翌年5月31日まで(半年間)
*有効期間内はいつでもご利用になります。

●優待券発行枚数表

ご所有株式数	発行枚数
1,000株 ~ 1,999株	1枚
2,000株 ~ 2,999株	2枚
3,000株 ~ 3,999株	3枚
4,000株 ~ 9,999株	4枚 + 4千株超過分2,000株毎に1枚
10,000株 ~ 999,999株	7枚 + 1万株超過分4,000株毎に1枚
1,000,000株 ~	254枚 + 100万株超過分8,000株毎に1枚

※但し1枚未満の端数は切り捨て

(例) 1,000株ご所有の場合→1枚発行
5,000株ご所有の場合→4枚発行

ご利用上のご注意

- 国内線航空券片道1区間につき、お一人様本券1枚が必要となります。
- 株主様ご本人はもちろんのこと、株主様以外の方でもご利用になります。
- 本券と当社所定のその他の割引とは重ねてご利用できません。
- エア・北海道便(ADK)・IBEXエアラインズ便(IBX)はANA便名のコードシェア便のみご利用になります。
- インターネットからご予約される場合には「普通運賃」(スーパーシートご利用の場合は「スーパーシートプレミアム運賃」)でご予約ください。
※チケットレスサービスはご利用になりません。
- 本券ご利用の際は、ANA国内発券カウンターまたはANA取扱旅行代理店等で航空券をご購入になります。なお、一部ご利用にならない店舗がございます。
- 季節運航・休止等により、ご利用にならない場合がございます。
- 本券を使用して航空券をお求めの際、航空券自動発売機はご利用になりません。
- 本券の有効期間内に航空券をお求めになると、航空券の有効期間内のご搭乗が可能です。但し、航空券面額とご搭乗便の適用運賃に差額がある場合は、ご搭乗に際し、差額調整が必要となります。
- 本券を使用して航空券をお求めの後、ご搭乗をとりやめ戻戻しをされる際、優待券の有効期間内、かつ航空券の有効期間内に限り「優待証未使用証明書」をお渡しいたします。優待券の有効期間内は「優待証未使用証明書」を提出していただければ、再度ご利用になります。
- 本券の有効期間経過後はご利用になりません。
- 本券は再発行いたしません。

ANAグループ各社優待

3月末または9月末で1,000株以上ご所有の株主の皆様はANAグループ各社でご利用になれる「ANAグループ優待券」をお一人様1冊発行いたします。



ANA HOTELSのご優待

ANA HOTELS(国内)でのご宿泊、ご飲食、及びご婚礼などの催しにご利用になります。*但し優待割引がご利用にならないホテルも一部ございます。ご予約、ご注文の際は優待券ご利用の旨お知らせください。

◆ご宿泊ご優待(30%割引 3枚)

国内すべてのANA HOTELSで優待券1枚で1室何泊でもご利用になります。但し、一部割引率が異なるホテルもございます。

◆日曜・月曜・祝日ご宿泊ご優待(50%割引 3枚)

但し、一部のホテルではご利用になりません。

◆成田全日空ホテルで宿泊ご優待(50%割引 3枚)

期間限定 2005年6月1日~2005年11月30日

◆岡山全日空ホテル<8月末オープン>

オープン記念ご宿泊ご優待(50%割引 2枚)

◆大阪全日空ホテルプレミアムフロア客室(19~23階)限定ご宿泊ご優待(40%割引 2枚)

◆レストラン・バーでのご飲食時のご優待(10%割引 5枚)

ホテルにより割引対象外となる施設・商品がございます。



◆ご婚礼のご優待(1枚)

ご利用になるホテルによりご優待内容が異なります。詳しくは各ホテルの婚礼担当にお問い合わせください。



国内・海外旅行パッケージツアー「ANAスカイホリデー」・「ANAハローツアー」商品のご優待

通常旅行代金より7%割引でご利用になります。(7%割引 各2枚)

(注1)代理店での申し込みにはご利用になりません。(注2)ANAスカイホリデー商品の内、旅めいく、オプションプラン、一部商品は除きます。(注3)ANAハローツアー商品の内、一部商品は除きます。



空港・ホテル内での買い物ご優待

国内33空港のANA FESTA(全日空商事エアポートショップ)・ANA HOUSE(全日空商事デューティフリー直営免税店)・ANAホテル内売店「トリテイングット」、および国内5空港のエアーニッポン商事直営売店にて1,000円以上お買い上げの際、ご利用になります。(10%割引 5枚) *一部の商品、一部の店舗を除きます。また免税店につきましても一部お取り扱いのできない商品があります。

通信販売カタログでのご優待

ANA機内通信販売カタログ ANA SKY SHOPをはじめ、全日空商事の通信販売カタログでご購入の際ご利用になります。(7%割引 5枚) *機内販売にはご利用になりません。



ANAインターネットホームページ

国内線、国際線の予約、運航案内、発着案内、ANAからのお知らせ、キャンペーン最新情報などを掲載

ANA SKY WEB
www.ana.co.jp

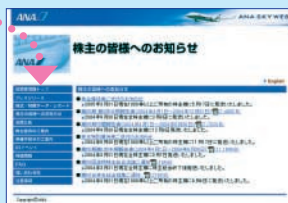
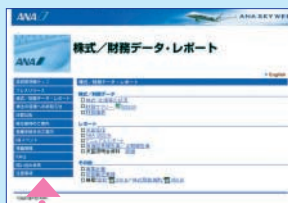
投資家情報もホームページでご覧になれます！



ANA SKY WEB

投資家情報
www.ana.co.jp/ir

※2005年6月28日より電子公告
制度を導入いたしました。



投資家情報トップ

プレスリリース

株式/財務データ・レポート

株主の皆様へのお知らせ

公告

株主優待のご案内

各種手続きのご案内

IRイベント

株価情報

FAQ

問い合わせ先

注意事項

優待券発行基準日 新規に株式を購入される方は、発行基準日(3月31日・9月30日)の5営業日前までに証券会社にてご購入手続きをお済ませください。
次回(2005年11月発行分)は、**2005年9月26日(月)**が権利付最終日となります。

4/1ご搭乗分より、東京(羽田)および名古屋(中部)発着路線は航空券ご購入の際に「旅客施設使用料」を航空運賃とともに空港ビル会社に代わって申し受けております。
●料金額(1名1区間片道): 羽田 100円(小児 50円) / 中部 200円(小児 100円)

国内線 ANA国内線予約・案内センター

0120-029-222 24時間受付 年中無休 Vナビ

〈有料〉0570-029-222 (携帯電話の場合)

東京 ☎03-3490-8800 大阪 ☎06-6534-8800
札幌 ☎011-726-8800 名古屋 ☎052-962-6211
福岡 ☎092-752-8800 沖縄(那覇) ☎098-861-8800

22:00~6:30および電話が込み合っている場合はVナビ(音声自動応答システム)でご案内いたします。

おからだの不自由なお客様のためのご相談窓口

ANAスカイアシストデスク ☎0120-029-377

FAX ☎0120-029-366 9:00-17:00 デラレス 年中無休

サービスについてのご意見・ご要望窓口

ANAカスタマーデスク ☎0120-029-787 9:00-17:00 土日祝 無休

国際線 ANA国際線予約・案内センター

0120-029-333 平日 土日祝 8:00-19:00 9:00-17:00 年中無休

〈有料〉0570-029-333 (携帯電話の場合)

ANA HOTELSのご予約・ご案内

ANA HOTELS予約センター(国内) 平日 土 日祝 9:00-17:00 9:00-17:00 無休
☎0120-029-501 ☎03-3505-1181

ANAハローツアーのご予約・ご案内

ANAハローツアー 株主優待デスク

中国方面 ☎0120-747-073 ☎03-6251-8678 平日 土日祝 9:30-18:30 9:30-17:30
それ以外の方面 ☎0120-747-860 ☎03-6251-8644

ハローお出かけダイヤル

0570-025860 市内通話料金だけでご利用になれます。 平日 土日祝 9:30-18:30 9:30-17:30
☎03-6251-8688

ANAスカイホリデーのご予約・ご案内

ANAスカイホリデー予約センター

東京 ☎03-6251-8600 大阪 ☎06-6375-8600
名古屋 ☎052-972-8600 札幌 ☎011-222-8600
広島 ☎082-511-8600 仙台 ☎022-263-8600
沖縄(那覇) ☎098-862-8600 福岡 ☎092-720-8600

※地区により営業時間は異なります。

通信販売のお申し込み・お問い合わせ

全日空商事 ANA SKY SHOPコールセンター 平日 土 日祝 9:00-19:00 9:00-17:00
☎0120-283-029 ☎03-3769-2876

7月・8月 ダイヤのお知らせ

運航に関する
ご案内

- 高松～札幌(千歳)線の運航を再開いたします。(7/1～)
- 高松～沖縄(那覇)線を運休いたします。(7/1～)
- 大阪(関西)～五島福江線の運航を再開いたします。(8/5～8/21)

7月の増便

- 大阪(伊丹)～札幌(千歳)線(4往復へ)
- 大阪(関西)～沖縄(那覇)線(3往復へ)
- 大阪(関西)～函館線(7月15日より2往復へ)
- 福岡～五島福江線(7月15日より4往復へ)
- 大阪(伊丹)空港発着の下記路線で夏期臨時便を設定します。
大阪(伊丹)～札幌(千歳)、釧路、沖縄(那覇)線

8月の増便

- 大阪(関西)～沖縄(那覇)線(8/22～31 4往復へ)
- 名古屋(中部)～福岡線(8/20～8/31 14往復へ)
- 名古屋(中部)～宮崎線(8/11～8/15 4往復へ)
- 名古屋(中部)～沖縄(那覇)線(6往復へ)
- 大阪(伊丹)空港発着の下記路線で夏期臨時便を設定します。
大阪(伊丹)～札幌(千歳)、釧路、大分、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄(那覇)線

株主メモ

- 決算期日毎年3月31日
- 定時株主総会毎年4月1日から3か月以内に開催
- 基準日定時株主総会権利行使確定日 3月31日
利益配当金受領確定日 3月31日
※中間配当金制度は採用しておりません。
株主優待券割当確定日 毎年3月31日及び9月30日
- 1単元の株式の数.....1,000株
- 名義書換代理人住友信託銀行株式会社
- 同事務取扱所.....東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
住友信託銀行株式会社証券代行部
郵便物送付先.....〒183-8701東京都府中市日鋼町1番10
電話照会先(通話料無料) ... [住所変更等用紙のご請求] ☎0120-175-417 (24時間自動音声対応)
[その他のご照会] ☎0120-176-417 (平日9:00~17:00)
※お届印の変更、名義書換、配当金など、その他株式に関するお問い合わせも、
上記の[その他のご照会]住友信託銀行株式会社証券代行部にご連絡ください。
- ホームページ <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>
- 同取次所.....住友信託銀行株式会社本店及び全国各支店
- 名義書換手数料..... 無料
- 公告の方法当社のホームページに掲載します。(<<http://www.ana.co.jp/ir>>)
- 証券コード.....9202

株主インフォメーション

★今後の株主様への送付物のご案内

●第56期第1四半期報告書(2005年4月1日~2005年6月30日)の送付:3月末現在の全株主様に9月初旬頃に発送予定です。

●単元未満株式買取・買増請求:お手続きの詳細は、弊社ホームページに掲載しておりますのでぜひご利用ください。

投資家情報(<http://www.ana.co.jp/ir>)ー各種手続きのご案内●単元未満株式

※買増請求は2005年9月13日~2005年9月30日については受付停止期間となっておりますのでご注意ください。

上記送付物は株主様のご登録住所に発送いたします。お引越しや住居表示(町名や番地など)が変更された場合にはお手続きが必要となりますので上記住友信託銀行株式会社証券代行部までご連絡ください。お手続きの用紙をお送りいたします。ご連絡をいただきませんと、優待券などの大切な送付物がお届けできなくなりますのでお早めにお手続きください。

尚、証券保管振替制度をご利用の場合は、住所変更・買取・買増請求ともにご預託の証券会社へご連絡願います。

全日本空輸株式会社

〒105-7133 東京都港区東新橋一丁目5番2号

総務部 株式担当 ☎03-6735-1001 (受付時間 平日9:00~12:00/13:00~17:25 ※但し金曜日は17:20迄/土・日・祝休)

ホームページ <http://www.ana.co.jp>



古紙配合率100%再生紙を使用しています